

2022年6月9日
 すみだ北斎美術館

特別展「北斎 百鬼見参」 「着衣鬼図」をはじめ北斎が鬼を描いた稀少な肉筆画3点を展示

この度、2022年6月21日よりすみだ北斎美術館において開催する特別展「北斎 百鬼見参」にて、鬼が描かれた北斎の肉筆画3点を展示いたします。作品数が多いことで知られる北斎ですが、鬼を描いた肉筆画は作例が少なく、3点はいずれも稀少な作品といえます。

肉筆画は、修復後初公開となる「道成寺図」（すみだ北斎美術館蔵）を本展前期（6月21日～7月24日）に展示するほか、「着衣鬼図」（佐野美術館蔵）を前期、「念仏鬼図」（すみだ北斎美術館蔵）を後期（7月26日～8月28日）に展示いたします。さらに、後期には「道成寺図」の高精細複製画を展示いたします。ご報道いただける場合は、広報担当までお問合せください。

北斎肉筆画3点の展示予定

葛飾北斎「着衣鬼図」（佐野美術館蔵）	前期（6月21日～7月24日）
葛飾北斎「念仏鬼図」（すみだ北斎美術館蔵）	後期（7月26日～8月28日）
葛飾北斎「道成寺図」（すみだ北斎美術館蔵）	前期（6月21日～7月24日）原画を展示 後期（7月26日～8月28日）高精細複製画を展示



葛飾北斎「着衣鬼図」佐野美術館蔵 前期展示

〔年代〕嘉永元年（1848）、〔材質技法・形態〕紙本着色一幅
 僧衣の赤鬼が、刺身の皿と徳利、数珠を前に座っています。煩惱を意味する生臭物に酒と、煩惱を打ち消す数珠のどちらをとるか悩んでいるようにも見えます。大津絵のイメージが根底にあると考えられますが、詳細な意味は不明です。右下の落款から、北斎が数え89歳のとき、門人の本間北曜（ほんまほくよう）に与えたものとわかります。

数少ない北斎の鬼を描いた肉筆画の貴重な一点であるとともに、最晩年の北斎の動静を知る上でも重要な作品です。



葛飾北斎「念仏鬼図」すみだ北斎美術館蔵 後期展示

〔年代〕天保14年（1843）、〔材質技法・形態〕紙本着色一幅
 僧衣をまとった赤鬼が、「藤娘」の大津絵の前に座っています。大津絵の定番の画題である「鬼の寒念仏」と「藤娘」を巧みに組み合わせた、北斎のユーモアが光る作品です。赤鬼は、煩惱を象徴する美しい藤娘の絵姿と、仏教の法具の鉦を前に、赤い顔をさらに赤らめつつ迷っているようにも見えます。

紙上の紹介および展覧会における一般公開は久々であり、数少ない北斎の鬼を描いた肉筆画としても注目すべき一点です。



※複製画の画像はイメージです。

葛飾北斎「道成寺図」すみだ北斎美術館蔵 高精細複製画（プリマグラフィ）後期展示

本展の目玉作品「道成寺図」を会期中いつでもお楽しみいただけるよう、今回新たに同作品の高精細複製画（プリマグラフィ）を制作、後期展示（7月26日～8月28日）にて展示いたします。

浮世絵作品は光に弱く退色が起こりやすいものです。作品を公開しつつ後世に保存していくため、年間の展示日数を適切に管理しながら展示替えを行っています。

企画：墨田区・すみだ北斎美術館 機材協力：富士フイルム株式会社 撮影・プリマグラフィ：凸版印刷株式会社

修復を終えた「道成寺図」原画は、前期展示（6月21日～7月24日）にて当館において初公開となります。（原画の詳細は別紙参照。）

▶[PV]葛飾北斎「道成寺図」修復後、初公開。 <https://vimeo.com/709960688>

特別展「北斎 百鬼見参」 「着衣鬼図」「念仏鬼図」 広報用作品画像請求紙

画像のお申込みにあたり以下の注意事項を必ずご一読いただき、全て遵守をお願いいたします。

◀ 画像貸出に関して注意事項 ▶

- ・画像を使用の際は、クレジット全文（作家名・作品名・所蔵先・展示期間）の表記が必須となります。
- ・画像は記事などで本展をご紹介いただける場合に限りご利用いただけます。
本展の広報に関わらない出版物や映像への使用・転載、商業利用はできません。
- ・画像の複製・貸与・頒布・配布・販売などはお断りいたします。
- ・画像は全図でご掲載ください（部分図のみの使用は不可となります）。
- ・ご使用後は、画像データの破棄をお願いいたします。
- ・展示作品は都合により変更することがあります。

ご希望の番号にチェックをお願いいたします。

1. 葛飾北斎「着衣鬼図」佐野美術館蔵（前期）
2. 葛飾北斎「念仏鬼図」すみだ北斎美術館蔵（後期）

※葛飾北斎「道成寺図」のご紹介については、広報へお問合せください。

貴社名
貴媒体名
部署名 (役職名)
ご芳名
ご連絡先 TEL FAX E-mail
ご掲載・放送予定 月 日
備考 ※ご要望などございましたらご記入下さい。



報道関係の
お問い合わせ先

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ
野田 / 中原 / 林 (アシスタント高橋)
TEL : 03-6658-8991 / FAX : 03-6658-8992
Email : hm-pr@hokusai-museum.jp



2022年5月18日
 すみだ北斎美術館

特別展「北斎 百鬼見参」 葛飾北斎「道成寺図」 修復後初公開

特別展「北斎 百鬼見参」での展示のため、葛飾北斎「道成寺図」の本紙部分及び周囲の掛軸表装の修復を行いました。本展が修復後の初公開となり、すみだ北斎美術館での展示も初となります。展示期間：特別展「北斎 百鬼見参」前期（2022年6月21日～7月24日）。ご報道いただける場合は、広報担当までお問合せください。



〔作者名〕 葛飾北斎

〔作品名〕 道成寺図

〔所蔵〕 すみだ北斎美術館

〔年代〕 文化（1804-18）前期頃

〔解説〕 道成寺（和歌山県日高郡日高川町）に伝わる安珍・清姫伝説をもとにした能「道成寺」が描かれた北斎の肉筆画です。

伝説では、安珍を追って毒蛇となった清姫が、寺の釣鐘に隠れた安珍を焼き殺してしまいますが、能ではその後日譚が描かれていません。本図は演目後半の見せ場で、鬼女の面を着け蛇体に扮した後、シテがシテ柱に巻き付く「柱巻き」が描かれています。妖力を用いる際に使う打ち杖を振り上げながら柱に絡みつ়姿は、爪先に至るまで神経が張りつめ緊張感があります。なお、能そのものを描いた北斎の肉筆画は他に例がないことから、珍しい作品といえます。

■ 「道成寺図」の修復について

《本紙の部分修復》

表装全体が波打ち、本紙に折山が生じていたのを平らにしました。（図1・2）
また、穴を補い、その部分に補彩しました。（図3・4）

《表装全体の改装》

修復前の落ち着いた印象から、重量感のあるやや幅広い印象に変更しました。特に絵の周囲の中廻しと呼ばれる部分は、雲龍柄の古銀欄に裂地を変更し、作品に合わせた迫力あるものにしました。（図5・図6）

